

附属図書館の留学生支援 — 三大学連携事業を契機に —

金沢大学の留学生数は平成21年度までは300人台半ばで推移していましたが、平成22年度には491人へと一気に増え、その後も500人前後を維持しています。

附属図書館では、増加する留学生への対応として、英文によるパンフレットの作成や英文ウェブサイトの構築、館内サインの英文併記等を行ってきました。

留学生アンケートの実施

平成24年6月21日に、金沢大学、名古屋大学、静岡大学の附属図書館で「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」を締結しました（詳細は次頁を参照）。

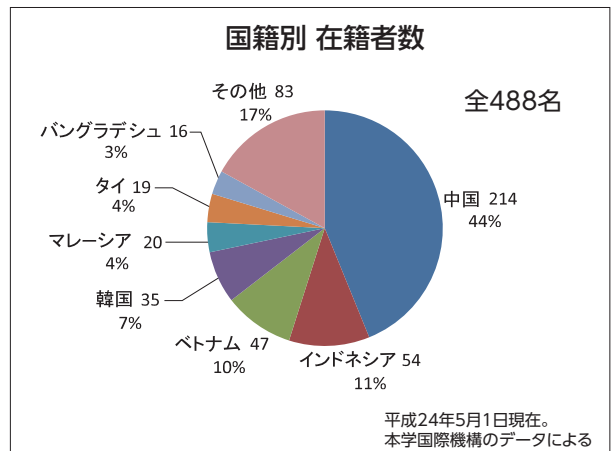
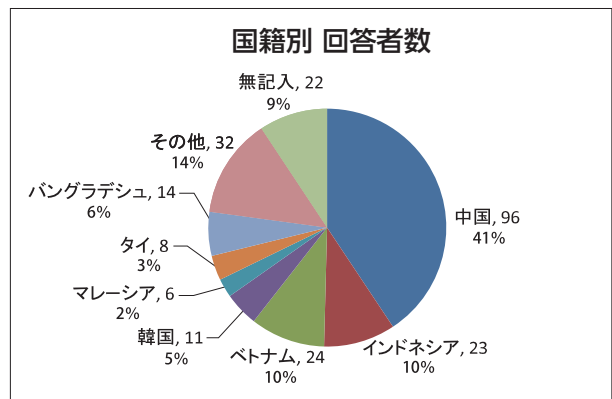
附属図書館は、この協定を契機として、留学生向けサービスの一層の充実に向け、6月から7月にかけて、全留学生を対象とするアンケートを行いました。

在籍する全留学生に対してアンケート用紙を配布し、回答率は48.3%でした。ご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

このアンケートから見てきた図書館サービスの大きな課題は、以下の2点でした。

- (1) 留学生に対するきめ細かな案内が十分でないこと
- (2) 英語資料に対する満足度が低いこと

さらに、利用可能な言語を尋ねた結果、「留学生の9割が英語、もしくは日本語を理解できる」ということがわかりました。金沢大学には各国からの学生が集まっていますが、まずは英語の案内を充実することが効率的であると言えます。



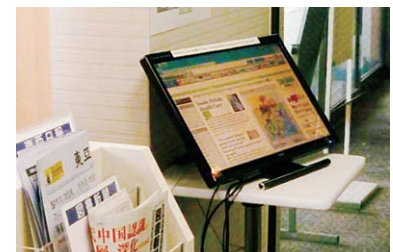
▶▶▶ アンケートの調査結果は、以下のサイトで公開しています。
<http://dSPACE.lib.kanazawa-u.ac.jp/dSPACE/handle/2297/33006>

留学生サービス向上への取り組み

アンケートの結果を受けて、附属図書館ではいくつかの取り組みを開始しています。

● 中央図書館ブックラウンジ内に PressDisplay 専用端末を設置（7月）

PressDisplay は、世界92カ国で発行されている48言語、1700紙以上の新聞がオリジナル紙面のまま利用できる新聞データベースです。学内のPCからインターネットで閲覧できますが、気軽に利用してもらおうと、中央図書館ブックラウンジ内の新聞コーナーにタッチパネル式の専用端末を設置しました。



●留学生向けの中央図書館オリエンテーションを開催（10/29,11/1）

英語併記のスライドによる説明と館内ツアー。学生ボランティアによる通訳（英語、中国語）を付けたこともあり、参加した留学生には満足してもらうことができました。この説明会は来年度以降、自然科学系図書館、医学図書館へ拡大し、継続して行う予定です。

●附属図書館の英文ウェブサイトの充実

英文情報をより探しやすくするための検討を開始しました。

●英語資料等の充実

12月から、留学生からの図書リクエストを受け付ける企画を行っています。今回の企画では、英語だけでなく、その他の言語（主に母国語）の資料も募集対象としました。

その他にも、日本語教科書の提供方法の見直しや、副教材の購入など、本学の留学生センターとも連携しながら留学生向けの資料を充実させていきます。

学生イベントへの支援



ブックラウンジでの交流イベント

中央図書館内のブックラウンジはイベントスペースとしても利用されており、学生サークル主催の留学生交流イベントも頻繁に開催されています。キャンパス内の分かりやすく、集まりやすい場所（図書館）にあるスペースということで使ってもらえているようです。異文化コミュニケーションに興味がある日本人学生も多く、毎回賑わっています。このようなイベントを、今後も支えていきます。

金沢大学附属図書館は、日本人学生だけでなく、留学生にも満足してもらえる図書館を目指します。

（情報サービス課 専門職員 守本 瞬）

前号で、金沢大学、名古屋大学、静岡大学の三大学の附属図書館連携事業による海外の図書館調査について報告しました。

その後、この連携事業は協定を交わすまでに発展し、平成24年6月21日、「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」を締結するに至りました。

これら三大学の附属図書館には、ラーニング・コモンズという学習支援空間が設置されています。この協定は、ラーニング・コモンズを利用した学習支援をより効果的に行っていくために三大学で協力することを目的とし、金沢大学は、主として留学生に対する学習支援を担当します。

ラーニング・コモンズは、国内の大学で設置が進んでいますが、もっと有効に活用するにはどうすればよいか模索が続いています。この協定をもとに、三大学で協力して有効な活用方法を提案していく予定です。

